

FULL HEIGHT DOOR®

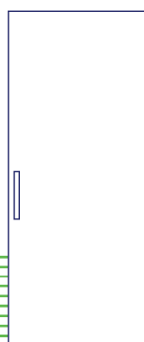
STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア

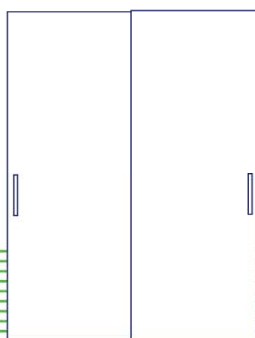
施工手順書

引込み戸ポケット戸・2枚引違い戸 【上吊タイプ】

引込みポケット戸
上吊タイプ



2枚引違い戸
上吊タイプ



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□引き込みポケット戸(上吊)

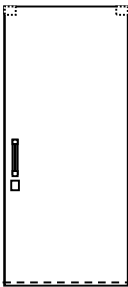
forステルス枠

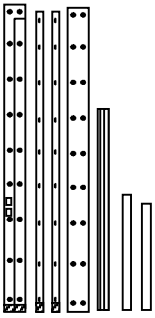
施工手順書2013/6更新

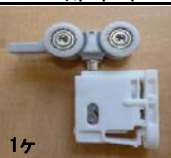
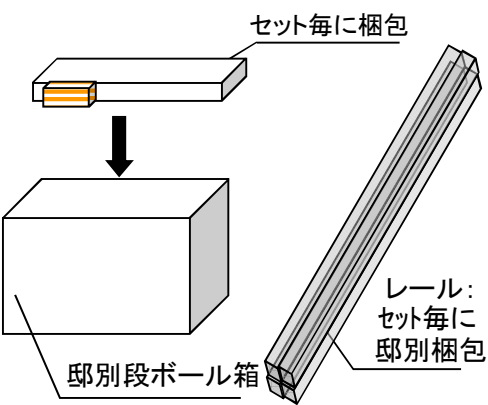
改訂2017/1

■製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同梱品	鎌錠			
部材	数量	備考			※鎌錠付の場合のみ1セット 建具金物箱に同梱		
引き戸	1枚	引手取付済み(ヴェルチカはなし)					
		固定カップ取付済み					
		木口引手取付済					
							

下地枠			同梱品	施工手順書			
部材	数量	備考					
縦枠下地	1本						
中方立下地	1本						
戸袋内部下地	1本		同梱品				
上枠下地	1本						
開口定規	1本	下地枠内(狭)寸法用					
	1本	下地枠内(広)寸法用					
							

下地金物箱			同梱品	引戸レール	上部吊車	上部吊車(両側スライダー付)	
部材	数量	備考					
金物箱	1式			2本(付属ビス含む)	1ヶ	1ヶ	
レール	1式			トリガー・取付治具		鎌鉸受け	調整ビス
			同梱品				
				2ヶ	※鎌鉸付の場合		
				床付ガイド			
							
				1ヶ(ビス3本付)			

□引き込みポケット戸(上吊)

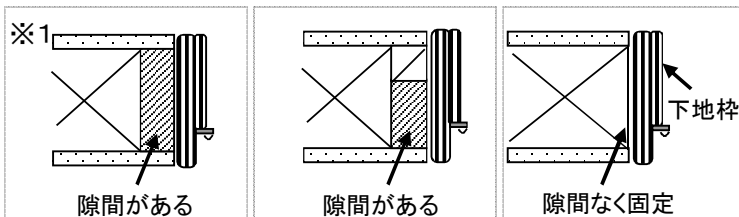
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。
（縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので、注意してください）

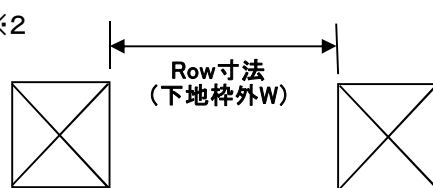


×

×

○

※2



図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認



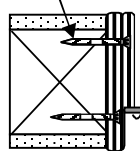
注意

- ※1: 下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
※2: 施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。
※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

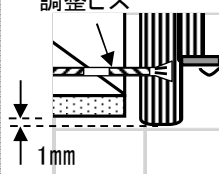
2 縦枠下地の取り付け

- ① 縦枠下地を柱に固定します。枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。（縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます）

調整ビス



調整ビス



ビスの止め方

×



ビスの止め方

○

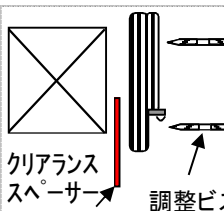


ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

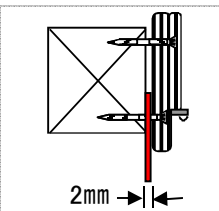
調整ビスにより枠を固定

壁厚より1mmずつチリが出る

- ② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm） また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランス
スペーサーを挟む



2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定



パッキン材

あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※縦枠下地の下部裏側に、あらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると、調整ビスが利かないので必ず間に木材（15mm以上）を入れてください。
※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。

□引き込みポケット戸(上吊)

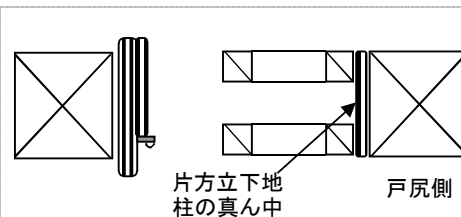
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

3 片方立下地の取り付け

- ① 片方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にて躯体に固定します。(柱の真ん中に取り付けます)



下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

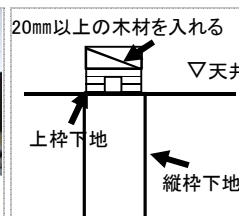
片方立下地の取り付け位置

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
 ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

4 上枠下地の取り付け

- ① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、壁厚の真ん中となります。(縦勝ちに納まります)その際に、上枠下地の裏側には20mm以上の材木を入れてください。



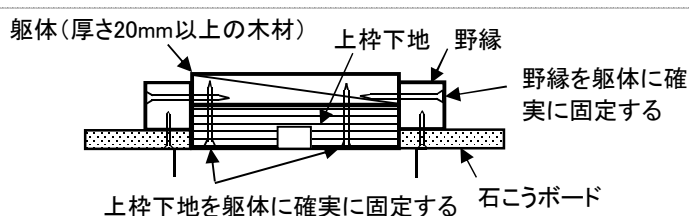
下地裏面に接着剤全面塗布

縦枠勝ちに納める

下地表よりビス固定

上枠下地の裏には20mm以上の材木を入れる

- ② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定
 その後、野縁に石膏ボードを取付ける

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
 ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置でビス止めを行ってください。
 ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の材木を入れてください。
 ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。
 ※縦枠下地、及び片方立下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。

□引き込みポケット戸(上吊)

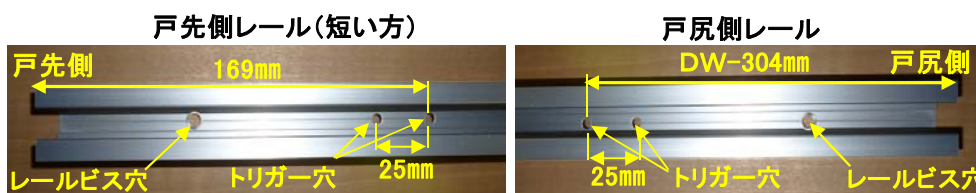
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

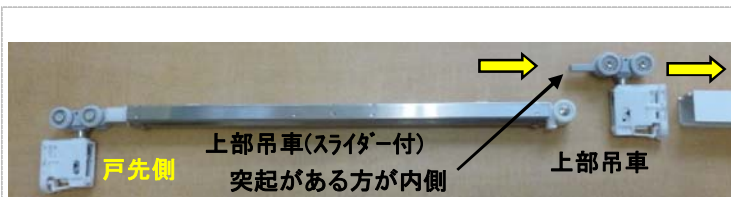
5 引戸レールの取り付け

- ① 引戸レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きを確認してください(2分割されていて長い方が戸袋側、短い方が戸先側となり両方にトリガー穴加工されています)。小壁を立てる前に、必ず戸袋側のレールを取り付けてください。
レールは別途梱包にあります。



レールの戸先側の向き確認
※短い方が戸先側

- ② 上部吊車をレール内部に入れてください。(上部吊車(スライダー付)が戸先側、上部吊車のみが戸尻側)
付属のレール取り付けビスで、レールを固定してください。



吊り車をレールに入れる



注意

※戸先側の吊り車の向きに注意してください。(突起がある方が内側)
※トリガーの取り付け穴には、レールビスを固定しないでください。
※小壁を立てる前に、必ずレールを取り付けてください。(後から取り付けはできません)

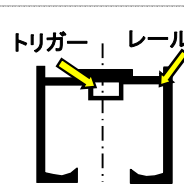
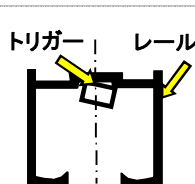
6 トリガーの取り付け

- ① トリガーを取り付ける前に、トリガーを取り付け用治具にセットします。(矢印がある方が戸先・戸尻側共、外側に向きます)
金物は別途金物箱にあります。



トリガーをトリガー取り付け治具にセット

- ② レール取り付け後、レール部の穴aとトリガーの穴aを合わせて取り付けます。(その際に戸先側と戸尻側を間違わないように取り付けてください)
穴aを完全に固定したら取り付け治具を引き抜き、穴bをビス止めします。



トリガーの穴を合わせる

トリガー取り付け方
× (斜め)

トリガー取り付け方
○

注意

※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。
※小壁を立てる前に、必ず小壁側のトリガーを取り付けてください。(後から取り付けはできません)

□引き込みポケット戸(上吊)

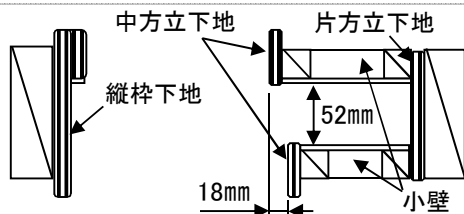
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

7 中方立下地の取り付け

- ① 戸袋内部に小壁を立てます。
(小壁～小壁の間は52mmあけてください)
その際、手前と奥の小壁は18mmの段差をつけてください。



小壁の立て方



- ② 小壁に中方立下地を接着剤、取り付けビス(現場手配品)併用にて固定します。(中方立下地は床仕上げ面から上枠下地の下端までの長さです)



下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

ビスの止め方
×

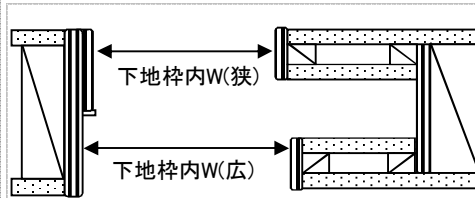
ビスの止め方
○

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします)
※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

8 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

- ① 下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規(2種類)にて下地枠内W寸法の確認をしてください。(狭)・(広)調整が必要な時は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。



下地材内に(狭)と(広)の開口定規にて開口を確認



下地枠内(狭)

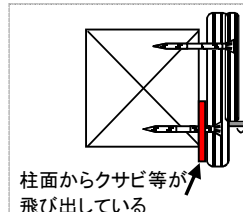


下地枠内(広)

- ② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定してください。

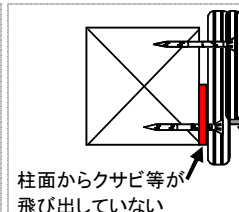


クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む



柱面からクサビ等が飛び出している

×



柱面からクサビ等が飛び出していない

○

クサビまたはパッキンの入れ方

クサビまたはパッキンの入れ方

注意

- ※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。
※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間にに入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出さないように注意してください。
※開口定規は2種類ありますので用途別に使い分けてください。(狭)・(広)

□引き込みポケット戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

9 巾木施工

- ① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



接着剤全面塗布



下地の巾木欠き込み部分
(7×30)



下地の欠き込み部分に
はめ込むように取り付け



注意

※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。
(巾木厚さ7mm以上の対応は行っておりません)

10 クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ① パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)
その際に、金物加工部分もクロスを巻き込んでください。



メッシュテープ貼り



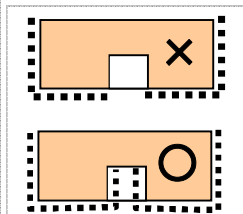
パテ処理



金物加工部分



金物加工部分も
クロスを巻き込む



クロスの貼り方

注意

※上枠下地のレール溝部分は、クロスを貼り伸ばして、レール溝に巻き込んでください。

□引き込みポケット戸(上吊)

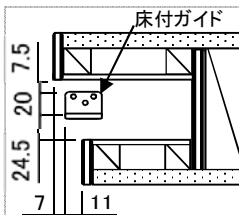
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

11 ガイドの取り付け

- ① 床付ガイドを取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



床付ガイドの取り付け

注意

※ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。

12 受け金物の取り付け (塗り壁の場合別紙塗り壁仕様参照)

- ① クロスが乾いてから受け金物部分(鎌錠付の場合、鎌錠受け部分)にカッターで切り込みを入れ、受け金物を加工部に取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



金物加工部分をカッターで切り込み

金物取り付け



注意

※金物加工は、クロスの上から取り付けられる寸法になっておりますので、加工形状に切り取らず、切り込みの上から取り付けてください。

□引き込みポケット戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

13 建具の吊り込み

① ガイドに、建具下のガイド溝から建具を差し込みます。				
	床付ガイドを建具溝に差し込む			
② 建具を起こしていながら、建具上部の固定カップと、レール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。				
	固定カップと上部吊車を連結する	パチンの音を確認		
注意	※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合は、プライヤー等工具を使用し取り外しを行ってください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが利かなくなったり、吊車が破損する可能性があるので注意してください。			

14 上部吊車・鎌鉋受けでの調整

① 吊り込み後に上部吊車にて調整を行う際は、上下調整は下側のネジ、前後調整は上側のネジにて手動ドライバーで行ってください。			【調整範囲】 上下方向±3.0mm 前後方向±2.0mm	
② 鎌鉋受けで調整する場合、上下調整は上下の固定ビスを緩め、鎌鉋受けを手で上下に動かしてください。前後の調整は、内側にあるビスをまわし行ってください。				
	上下の調整	前後の調整		
注意	※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※ソフトクローズ機能の調整はできません。			

□ 2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

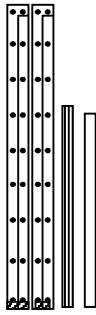
施工手順書2013/6更新

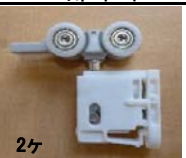
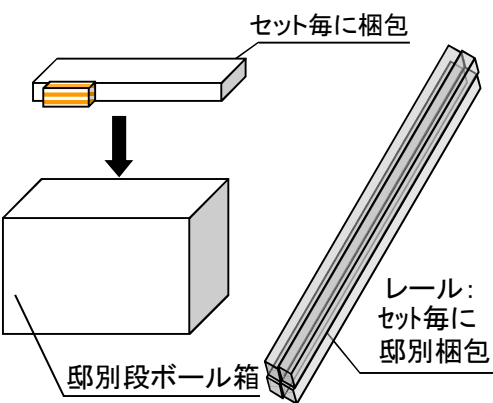
改訂2017/1

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同 梱 品				
部材	数量	備考					
引き戸	2枚	引手取付済み(ヴェルチカはなし) 固定カップ取付済み					

下地枠			同 梱 品	施工手順書			
部材	数量	備考					
縦枠下地	2本						
上枠下地	1本						
開口定規	1本	下地枠内寸法用					
							

下地金物箱			同 梱 品	引戸レール	上部吊車	上部吊車(両側スライダー付)								
部材	数量	備考												
金物箱	1式			2本(付属ビス含む)	2ヶ	2ヶ								
レール	1式			トリガー・取付治具	床付ガイド									
 セット毎に梱包 レール: セット毎に 邸別梱包 邸別段ボール箱														
				調整ビス										
				 1セット <table><tr><td>H21</td><td>24本</td></tr><tr><td>H24</td><td>28本</td></tr><tr><td>H26</td><td>28本</td></tr></table>	H21	24本	H24	28本	H26	28本				
H21	24本													
H24	28本													
H26	28本													

□ 2枚引違い戸(上吊)

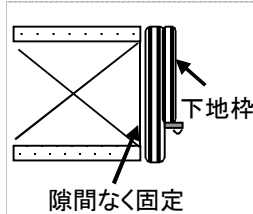
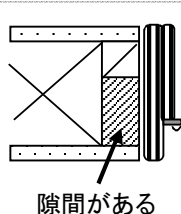
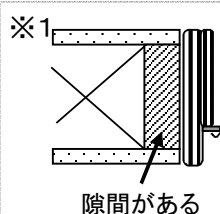
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。（縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）

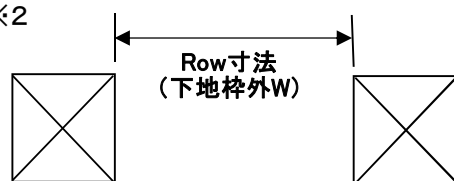


×

×

○

※2



図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認

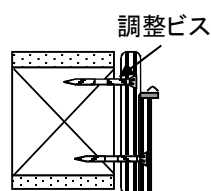


注意

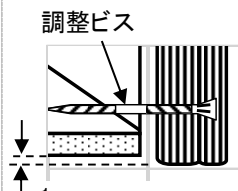
- ※1：下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
 ※2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。
 ※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

2 縦枠下地の取り付け

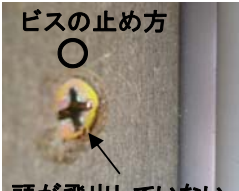
- ① 縦枠下地を柱に固定します。
 （向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方）
 枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。
 （縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます）



調整ビスにより枠を固定

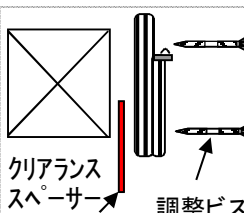


壁厚より1mmずつチリが出る

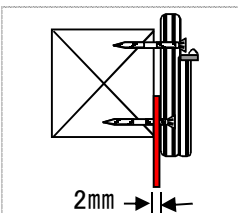


ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 取り付けの際に調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー（2mm）を躯体と枠の間に挿入しクリアランスを保ちビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm） また 縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランス
スペーサーを挟む



2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定



あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
 ※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
 ※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材（15mm以上）を入れてください。
 ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度取付けを行ってください。

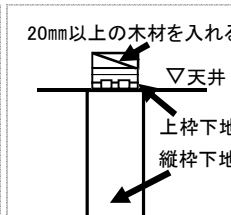
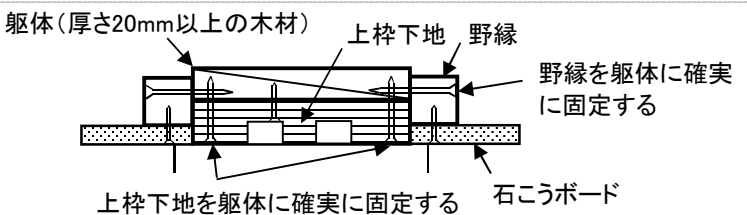
□ 2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

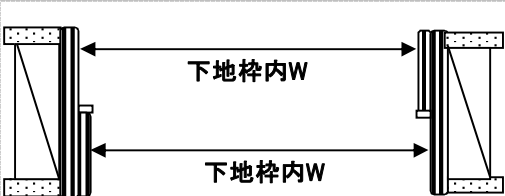
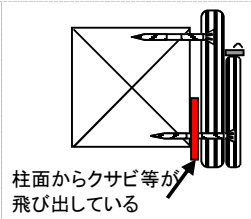
施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

3 上枠下地の取り付け

①	上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は壁厚の真ん中となります。(縦勝ちに納まります) その際に上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。				
		下地裏面に接着剤全面塗布	縦枠勝ちに納める	下地表よりビス固定	上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れる
②	上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。				
		石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける			
注意	※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします) ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。 ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。				

4 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

①	下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規にて下地枠内W寸法の確認をしてください。 調整が必要な時は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。			
	下地材内の開口定規にて開口を確認	下地枠内		
②	ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン（現場手配品）を接着剤併用にて入れて固定してください。			
	クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、 縦枠下地と躯体の間に差込む	クサビまたはパッキンの入れ方	クサビまたはパッキンの入れ方	
		×	○	
※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス（現場手配品）にて取り付けを行ってください。 ※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に立てて入れながら行ってください。 ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出さないようにしてください。				

注意

□ 2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

5 巾木施工

- ① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



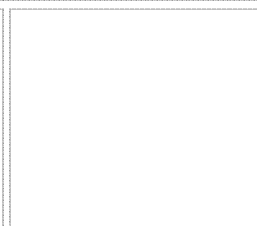
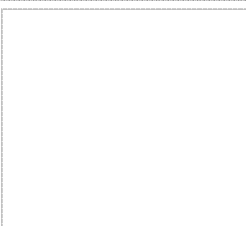
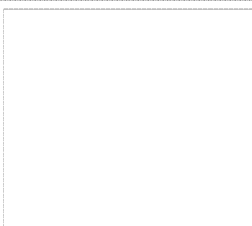
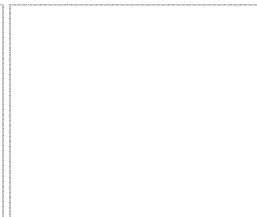
接着剤全面塗布



下地の巾木欠き込み部分
(7×30)



下地の欠き込み部分に
はめ込む様に取り付け



注意

※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。
(巾木厚さ7mm以上の対応は行っておりません)

6 クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ① パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)
その際に金物加工部分もクロス巻き込んでください。



メッシュテープ貼り



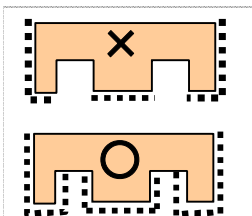
パテ処理



金物加工部分



金物加工部分も
クロスを巻き込む



クロスの貼り方



注意

※上枠下地のレール溝部分はクロスを貼り伸して、レール溝に巻き込んでください。

□ 2枚引違い戸(上吊)

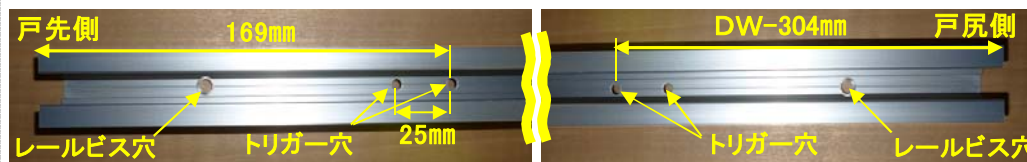
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

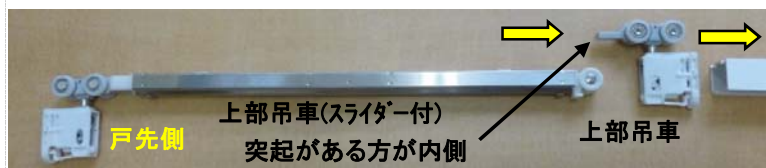
7 引戸レールの取り付け

- ① 引戸レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローズ付の為、両側にトリガー穴加工がされており、距離の短い方が戸先側になります)
レールは別途梱包にあります。



レールの戸先側の向き確認

- ② 上部吊車をレール内部に入れてください。(上部吊車(スライダー付)が戸先側、上部吊車のみが戸尻側) 付属のレール取付ビスでレールを固定してください。



吊り車をレールに入れる

注意

- ※戸尻側の吊り車の向きに注意してください。(突起がある方が内側)
※トリガー取り付け穴には、レールビスを固定しないでください。

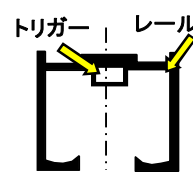
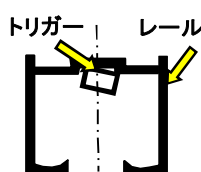
8 トリガーの取り付け

- ① トリガーを取り付ける前に、トリガーを取り付け用治具にセットします。(矢印がある方が戸先・戸尻側共、外側に向きます)
金物は別途金物箱にあります。



トリガーをトリガー取り付け治具にセット

- ② レール取り付け後、レール部の穴aと、トリガーの穴aを合せて取り付けます。(その際に戸先側と戸尻側を間違わないように取り付けてください)
穴aを完全に固定したら取付治具を引き抜き、穴bをビス止めします。



トリガーの穴を合わせる

トリガー取り付け方
× (斜め)

トリガー取り付け方
○

注意

- ※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

□ 2枚引違い戸(上吊)

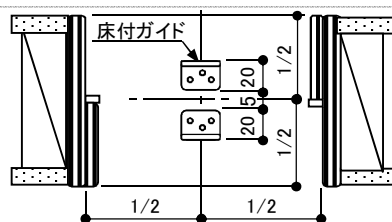
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

9 ガイドの取り付け

- ① 床付ガイドを取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



床付ガイドの取り付け



注意

※ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。

10 建具の吊り込み

- ① ガイドに、建具下のガイド溝から建具を差し込みます。



床付ガイドを建具溝に
差し込む

- ② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップと、レール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。



固定カップと
上部吊車を連結する



パチンの音を確認



注意

※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。

※吊車を取り外す際、素手では外れない場合は、プライヤー等の工具を使用し取り外してください。

※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが利かなくなったり、吊車が破損する可能性があるので注意してください。

□ 2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

11 上部吊車での調整

① 吊り込み後に上部吊車にて調整を行う際は、上下調整は下側のネジ、前後調整は上側のネジにて手動ドライバーで行ってください。			【調整範囲】 上下方向±3.0mm 前後方向±2.0mm	
	上部吊車 上下の調整	上部吊車 前後の調整		
				
注意	※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※ソフトクローズ機能の調整はできません。			

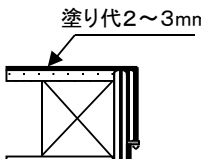
□ 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

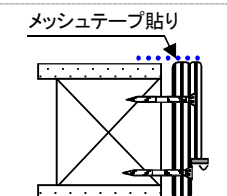
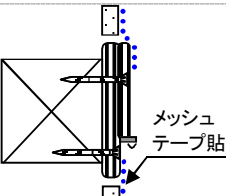
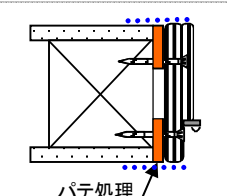
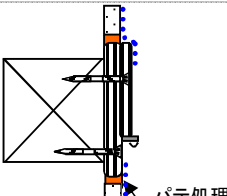
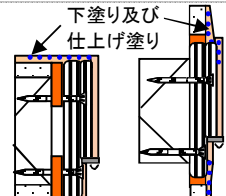
施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1-1 共通事項

① 枠の取り付け・調整、クサビまたはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)				
	接着剤全面塗布	下地の巾木欠き込み部分 (4×30)	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け	塗り代 2～3 mm
注意 ※出荷時には、巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く（4mm）欠き込んであります。（巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません） ※塗りの厚みは2～3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2～3mm出っ張るよう加工されています。 ※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。（下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります）				

1-2 共通事項

③ 受金物の取り付けが終わったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。				
	受金物等に養生	メッシュテープ貼り (石膏ボードと枠をまたぐように貼る)		
④ メッシュテープを貼った後、パテ処理（2度塗りを推奨）をしてください。パテが乾燥後、下塗り材（アク止め入り）をムラなく塗り、1～2日乾燥させてください（漆喰の場合は2度塗り）。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3～4日乾燥させてください。 この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。				
	パテ処理（下地処理） (2度塗りを推奨)		下塗り及び 仕上げ塗り	
注意 ※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切りに塗ってください。 ※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。 ※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1～2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。				

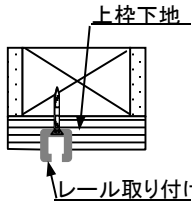
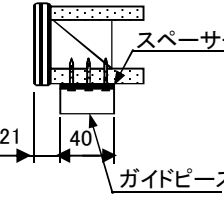
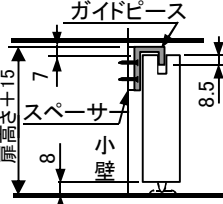
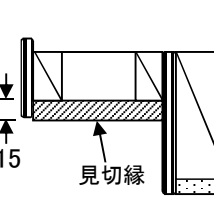
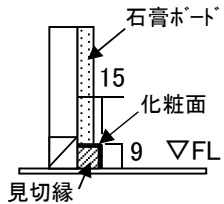
□塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

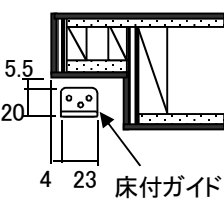
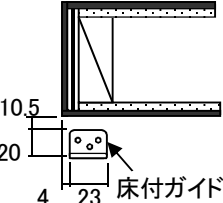
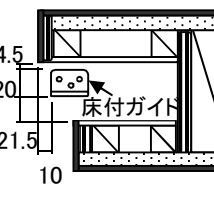
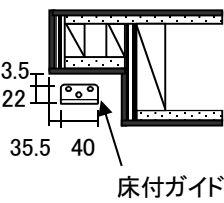
改訂2017/1

2-1 塗り壁施工前手順

① レールの取り付け 下り壁仕様の場合、引き戸レール・折戸レールは塗り壁施工前に取り付けてください。	 上枠下地 レール取り付け			
② ガイドピースの取り付け 床付レール仕様の場合、ガイドピースを塗り壁施工前に、裏側のスペーサーと共に取り付けてください。（取り付け位置はクロス仕様と同じ位置です） 見切縁の取り付け 引込み戸の戸袋側の小壁に沿わせて見切縁を取り付けます。	 ガイドピース スペーサー ガイドピース 21 40 8 15 小壁	 ガイドピース スペーサー 8.5 15 見切縁	 見切縁	 石膏ボード 化粧面 9 ▽FL 見切縁
注意	※フリー折戸の下レール、及び床付レールの取り付け位置は、クロス仕様と同じ位置になります。 ※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼り仕様のため、クロス貼り後にレールを取り付けてください。 ※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりもはみ出さないように塗り壁施工を行ってください。			



2-2 塗り壁施工前手順

① 床付ガイドの取付け 塗りの厚みが3mmの場合、塗り仕上げ面からそれぞれ所定の位置にガイドを取付けてください。	 5.5 20 4 23 床付ガイド	 10.5 20 4 23 床付ガイド	 4.5 20 21.5 10 床付ガイド	 3.5 22 35.5 40 床付ガイド
注意	※塗りの厚みが3mmの場合の塗り仕上げ面からの位置になります。			